

## 平成 22 年度愛媛大学大学院入学式式辞

本日ここに平成 22 年度入学式を挙げるにあたり、愛媛大学を代表して皆さんの大学院への入学を心から歓迎いたします。

この大学院入学式のために、ご臨席を賜りましたご来賓、ご家族をはじめ、関係の皆様に、深く感謝申し上げます。

今年度、愛媛大学大学院に入学された方々は、大学院博士課程では、医学系研究科博士課程と理工学研究科博士後期課程に 54 名、大学院修士課程では、法文学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科博士前期課程及び農学研究科に 474 名の皆さんであります。この他に、愛媛大学には、香川大学、高知大学と共に構成する博士課程の連合農学研究科がありますが、来る 4 月 12 日に入学式を行い、21 名を迎えることになっています。

皆さんの中には 64 名の社会人学生、31 名の海外からの留学生が含まれています。これらの方々は学業以外の面においても多くのご苦労があることと思います。困難をいとわず学問に挑む皆さんの高い志をたたえるとともに、試練を乗り越えて、所期の目的・目標を達成されることを願っています。

社会は今、新しい知の創造や新しい技術の開発のために、若い知識人や研究者、高度の専門職業人が数多く輩出されることを期待しています。愛媛大学大学院に入学された皆さんがこの社会的な使命を自覚し、高い志をもって学修と研究に励み、優れた専門職業人あるいは研究者として成長されるよう祈念いたします。



愛媛大学の各研究科においては、大学院課程のカリキュラムの改革が行われています。

修士課程においては、修士論文作成のための勉学だけでなく、広い分野の基礎的な知識や技術を修得するためのコースワークが導入されています。広い知識基盤のもとに、専門領域の最先端の諸課題を理解し、その学術的な位置づけと動向を把握することが必要です。また、共同作業や集団的な議論の中で、他人の意見を理解し、自分の意見を述べられるようになること、そして、自分の研究テーマを遂行するために、自ら学修し、必要とあらば国内外を問わずどこにでも出かけて教えを乞い、自分の研究能力を高めることが必要です。

博士課程においては、将来、大学や企業などの研究機関において研究者として活躍することが期待されます。そのためには、自分の目標をもつこと、しかも大きな目標をもつことが大事です。そして、その目標を実現するために、着実に徹底した日々の研鑽が必要です。これからの社会においては、専門知識や技術は細分化された狭い領域で、ますます高度化し先鋭化していきます。どのような研究機関においても、深い専門性が必要とされます。しかし、他方では、専門を深めれば深めるほど、単独では役に立たなくなります。知識が高度化

した社会においては、いかに優れた専門職業人や研究者といえども、一人でできることは限られています。もっとも大切なことは、人と共同してチームをつくり、その中で互いの意見を闘わせながら一人ひとりがもっているものとは違う新しい次元の知を創り出すことでもあります。

修士課程であっても博士課程であっても、自分の専門を究める過程で大切なのは、「人間関係を構築する能力」です。コミュニケーション力や協調性やリーダーシップなどの「人間関係を構築する能力」は、多くの人と良好な関係を保つために必要なだけでなく、研究レベルを高めるためにも必要です。皆さんもこれまでに何度も経験していると思いますが、自分で理解しているつもりでも、人と議論を交わした時に実はあやふやな理解しかしていなかったことに気付くことがあります。自分の理解を深めたり、新しい発想を得たりするためには、人との意見交換や議論が不可欠です。そのような意味において、研究は個人的な営みであると同時に、すぐれて共同的な作業でもあります。皆さんはそのような機会をなるべく多くもつために、研究室やゼミでの発表や討論、あるいは学内外での交流、国内外での学会発表などに積極的に取り組んでいただきたいと思います。

さて、愛媛大学は6年前の平成16年度に法人化し、今年度から第2期中期目標期間に入りました。法人化のメリットは自主裁量権の拡大であると受けとめ、自律的な運営によって大学本来の使命を果たし、教育、研究、社会貢献において特色ある優れた大学にするために、改革を押し進めてきました。私たちの目標は、「学生中心の大学」、「地域にあって輝く大学」、「地域から世界に発信する大学」を創ることでもあります。



学術研究面では、大学全体が高いレベルの研究を推進するとともに、環境、生命の分野において、卓越したグループを中心に先端研究センターを設置し、世界に発信する研究を進めることを目指してきました。現在、愛媛大学にはこのような研究センターが6つあり、最も新しいプロテオ医学研究センターは、昨年4月に重信キャンパスに設置されました。

私たちが誇りとするのは、愛媛大学にはこのような研究センターを中心に日本の学術を代表する研究者が数多くおられることです。無細胞生命科学工学研究センターの遠藤先生は無細胞タンパク質合成技術を世界ではじめて開発されました。その技術を応用して、マラリアのワクチンの開発に取り組んでいるのが坪井先生のグループです。グローバルCOEリーダーである沿岸環境科学研究センターの田辺先生は、地球環境化学の第一人者です。また、これもグローバルCOEリーダーである入舩先生は、世界最先端の地球深部実験技術を開発し、地球深部物質動態の新理論を展開されています。さらに、宇宙進化研究センターの谷口先生は、膨張する宇宙の実体を描くことにおいて他の追随を許さない実績をもっておられ

ます。理系のみならず、文系分野にもユニークな先生方がおられます。中国の古代製鉄遺跡の発掘を行い、東アジアにおける鉄文化の変遷を研究する考古学者、村上先生もそれを代表する一人です。

また、愛媛大学には地域の産業や文化、教育、医療などにおいて学術的に貢献する優れた研究者、研究グループが数多く存在することも私たちの誇りとしているところであります。平成20年4月に愛媛県南端の愛南町に設置した南予水産研究センターは、愛媛県の誇る養殖業の持続的発展を図るとともに、将来の水産業のあり方について新しい展望を開きつつあります。また、農学部においては、日本の食料自給率の向上を目指した太陽光利用型の知的植物工場の研究が急速な進展を見せています。今後さらに、地域のさまざまな産業を発展させるための基礎的な研究をいっそう盛んにすることに私たちは努力を注いでいくつもりであります。

今回、大学院に入学された皆さん一人ひとりが、21世紀の知識社会を切り拓く有為の人材として、力強く育っていくことを祈念し、式辞といたします。

平成22年4月6日 愛媛大学長 柳澤 康信

